

# 感染症発生動向調査委員会報告 7月

## 今月のトピックス

- 新型インフルエンザが市内で246例報告されました(7月30日13時現在)。
- 腸管出血性大腸菌感染症が増えています。レバーや牛肉の生食に気をつけましょう。
- 手足口病、ヘルパンギーナといった夏の感染症が増えてきました。
- 伝染性紅斑が過去5年間で最も高い水準でしたが、落ち着いてきました。

### 【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点:88か所、内科定点:57か所、眼科定点:15か所、性感染症定点:26か所、基幹(病院)定点:3か所の計189か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計145定点から報告されます。

平成21年6月22日から7月26日(平成21年第26週から第30週)まで。ただし、性感染症については平成21年6月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

### 全数把握の対象

#### < 新型インフルエンザ >

市内1例目の発生が6月6日にあり、7月16日まで全数調査を行いました。横浜市衛生研究所で、7月16日の検体まで延べ1079件の検査を行いました。内訳は240件がs wAH1(新型インフルエンザ)、4件がAH1(ソ連型)、111件がAH3(香港型)でした。

その後、7月30日昼までに、更に8件検査を行い、内6件が新型でした。市内では、迅速診断キットA(+ )に占める新型インフルエンザの割合が高くなっています。

国内の患者数は、7月30日現在5,022人です。全世界の患者数は、7月30日現在175,785人で、内1,116人が死亡していますが、今のところ市内では重症例は見られていません。今後、重症者情報(入院情報)、集団発生情報(クラスター情報)、病原体情報に注意が必要です。

#### 横浜市新型インフルエンザ関連情報

<http://www.city.yokohama.jp/me/anzen/kikikanri/influenza/>

#### < 腸管出血性大腸菌感染症 >

7月の報告数は、29日現在で29例と増加しています。血清型の内訳はO157が28例で、その内1例にO165が重複感染していました。O26が1例でした。3歳から73歳まで幅広い年齢層で見られ、判明した感染経路は、焼肉店でのレバー刺、牛肉の生食等でした。例年夏に多く見られますので、この時期は、特にレバーは火を通して食し、家庭では、食材の取り扱いに注意し、手洗い、調理器具の洗浄、生肉は、中心温度75度以上で1分間以上加熱するなど心がけましょう。

#### 啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

#### < 細菌性赤痢 >

ゾンネが1例見られました。渡航歴はありません。

#### < 麻疹 >

7月は29日現在で8例の報告が見られました。うち3例は同一家族の感染でした。予防接種歴は、3例に接種歴がありましたが、1回だけの接種でした。2例は接種歴不明で、3例は接種歴が無く、その内の2例は罹患歴がありました。平成19年より麻疹の定期予防接種は2回となっています。

今後、予防接種の徹底が望まれます。

#### 麻疹に関する特定感染症予防指針

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/09/dl/s0903-8l.pdf>

（日本は、2008年～2012年の5年間で、麻疹排除を目指します）

麻疹・風しんは全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握しています。  
1歳および就学前1年間の、麻疹風しん混合ワクチンによる2回接種の徹底  
5年間に限り、中1及び高3相当の年齢の者への定期接種を実施

#### 国立感染症研究所ホームページ

<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>

#### < 風疹 >

ワクチン接種歴のある成人が1例見られました。

### 定点把握の対象

#### < (季節性)インフルエンザ >

今シーズンは、2008年第49週に流行の目安となる「定点あたり報告数1.0」を超え、2009年第4週に流行のピークとなりましたが、第9週から再び増加に転じ、第11週にもピークとなる二峰性になりました。第30週は定点あたり報告数が0.14となりました。報告のあったのは12区です。行政区別では、西区が0.5、都筑区が0.4と続きます。川崎市は0.07、神奈川県(横浜、川崎除く、以下県域)は0.09、全国は0.28でした。市内における新型インフルエンザの発熱外来での全数調査が、7月16日をもって中止されたために、今後季節性インフルエンザの報告数に新型インフルエンザも含まれますので、報告数の推移に更なる注意が必要です。

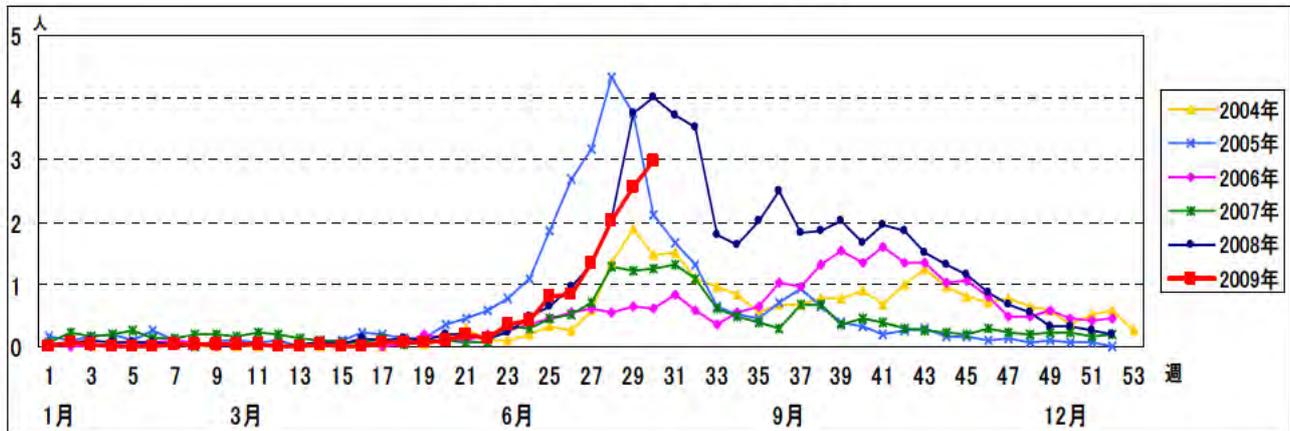
#### < A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 >

去年は、過去5年間で最も高い水準で推移していました。今年に入ってから例年並みの水準ですが、第24週の2.81から下り坂で、第30週は1.36と落ち着いています。行政区別では、港北区が8.14と高く、中区2.33、保土ヶ谷区1.80と続きます。川崎市は1.33、神奈川県(県域)は0.77、全国は0.87でした。

<手足口病>

6月に入って増加を始め、第30週には3.00と、過去5年間で2番目に高い水準となっています。例年夏にかけて増加してくるから、今後の動向に注意が必要です。行政区別では、栄区13.33、泉区9.50、港南区8.50、瀬谷区4.75となっています。川崎市は2.28、神奈川県(県域)は1.20、全国は1.50と、いずれも横浜市より低い値です。

定点あたりの手足口病月別報告数



<伝染性紅斑>

例年並みの水準で推移していましたが、第13週から増加し、第28週は定点あたり1.74と、過去5年間で最も高い水準でしたが、第30週には0.77と落ち着きを見せています。川崎市は1.09と横浜より高いのですが、神奈川県(県域)は0.59、全国では0.14であり、横浜市より低い値です。

<ヘルパンギーナ>

2009年は当初から過去5年間でも低い水準で推移していましたが、第25週には定点あたり0.67と、増加の兆しが見られ、第30週には3.00でした。行政区別では、瀬谷区8.75、緑区8.75、港北区5.86、泉区5.75と続きます。川崎市は2.55、神奈川県(県域)は1.66、全国は2.28と、いずれも横浜市よりやや低い値です。

<性感染症>

性感染症は、産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。6月は、5月に比べて全体としては横ばいです。性器クラミジア他31例、尖圭コンジローマが21例、性器ヘルペス感染症が12例、淋菌感染症が17例でした。男女とも20歳から44歳にほぼ集中して見られ、25歳から35歳が特に多くなっていますが、性器ヘルペス感染症は、60歳代と70歳代に各1例見られました。

#### 【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点：9か所、インフルエンザ（内科）定点：4か所、眼科定点：1か所、基幹（病院）定点：3か所、の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

#### 衛生研究所から

##### < ウイルス検査 >

2009年7月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点38件（鼻咽頭ぬぐい液33件、糞便5件）、基幹定点4件（咽頭ぬぐい液、糞便各1件、髄液2件）でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎15人、ヘルパンギーナ7人、胃腸炎（下痢・嘔吐含む）5人、発疹4人、伝染性紅斑症3人、手足口病2人、咽頭結膜熱1人、インフルエンザ1人、基幹定点は手足口病、脳炎各1人でした。

8月10日現在、小児科定点では、ヘルパンギーナと手足口病患者各1人からエンテロウイルス71型、胃腸炎患者1人からコクサーキウイルス（Cox）B3型が分離されています。これ以外にPCR検査では、小児科定点の気道炎患者6人からヒトメタニューモウイルス（4検体）、CoxA10型、RSウイルス（各1検体）、ヘルパンギーナ患者5人からCoxA2型（2検体）、CoxA4型（1検体）、CoxA10型（2検体）、伝染性紅斑患者3人と発疹患者1人からヒトパルボウイルスB19型、発疹患者3人からCoxA9型、咽頭結膜熱と発疹患者各1人からエコーウイルス18型、手足口病患者1人からエンテロウイルス71型、インフルエンザ患者から新型インフルエンザAH1pdm、胃腸炎患者2人からCoxA10型、アデノウイルス（型未同定）（各1検体）、またCoxB3型が分離された胃腸炎患者検体からはノロウイルスG2型も検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

##### < 細菌検査 >

7月の感染性胃腸炎関係の受付は4件でカンピロバクターが1件検出されました。

基幹定点からの菌株の受付は21株で腸管出血性大腸菌3件、毒素原性大腸菌と腸管病原性大腸菌各1件検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は5件でA群溶血性レンサ球菌が2件から検出されました。

百日咳の検体は1件で百日咳菌が検出されました。

髄膜炎関係は2件で大腸菌と黄色ブドウ球菌でした。

また、VRE関係が1件でvan遺伝子は認められませんでした。